

平成２９年１２月末までの千葉県袖ヶ浦福祉センターの見直しに関する進捗状況

１ 更生園・養育園の管理運営（指定管理者制度等）のあり方の見直し

実 施 内 容	平成２９年１２月末までの進捗状況
<p><b>（１）期限の設定</b></p> <p><b>（ア）見直しの期間設定（県）</b> 第五次障害者計画の周期とあわせ、平成２７年度から平成２９年度までの３年間で集中見直し期間とする。（第五次障害者計画に集中見直し期間の設定の他、本実施内容について盛り込む。）</p> <p><b>（イ）見直しの進捗評価（県）</b> 集中見直し期間中の見直しの進捗について評価する千葉県袖ヶ浦福祉センター見直し進捗管理委員会を設け、毎年度末に当該年度の進捗を報告し評価を受け、集中見直し期間終了後に総括評価を受ける。</p> <p><b>（２）管理運営方法の見直し</b></p> <p><b>（ア）集中見直し期間中の管理運営（県）</b> 平成２９年度末までは事業団を指定管理者として指定する（現在の指定管理期間（平成２３年度から平成２７年度まで）後は、非公募で事業団を指定する。）</p> <p><b>（イ）集中見直し期間後の管理運営（県）</b> 集中見直し期間終了時点において、民間法人が参入しやすいよう、養育園と更生園をそれぞれ単独の県立施設として管理運営できる体制整備を図る。（利用者に継続した支援を提供する観点から、現在の支援員が</p>	<p><b>（１）期限の設定</b></p> <p><b>（ア）見直しの期間設定（県）</b> 第五次障害者計画の周期とあわせ、平成２７年度から平成２９年度までの３年間で集中見直し期間とし、第五次障害者計画に集中見直し期間の設定の他、本実施内容について盛り込んだ。（平成２６年度に実施済）</p> <p><b>（イ）見直しの進捗評価（県）</b> 集中見直し期間中の見直しの進捗について評価する千葉県袖ヶ浦福祉センター見直し進捗管理委員会に、各年度の進捗状況等を報告している。 <u>平成２９年度分については、３月に報告する予定。</u></p> <p><b>（２）管理運営方法の見直し</b></p> <p><b>（ア）集中見直し期間中の管理運営（県）</b> 平成２８年度から平成２９年度までの指定管理者として、非公募で事業団を指定した。<u>（平成２７年度に実施済）</u></p> <p><b>（イ）集中見直し期間後の管理運営（県）</b> 集中見直し期間終了時点において、民間法人が参入しやすいよう、養育園と更生園をそれぞれ単独の県立施設として管理運営できる体制整備に向け検討し、養育園と更生園を分割して指定管理者を募集するため、平成２９年２月議会で設置管理条例を改正した。平成２９年４月から養育園と更生園の指定管理者を分割して募集したとこ</p>

継続して支援にあたるよう配慮する。)	<u>ろ、それぞれ事業団1者から応募があった。有識者の意見聴取を実施した上で、指定管理者選定委員会にて審査を行い、平成29年9月県議会の議決を経て、事業団を養育園と更生園それぞれの指定管理者として指定した。</u>
--------------------	---

## 2 今後の養育園・更生園のあり方の見直し

実 施 内 容	平成29年12月末までの進捗状況
<p>(1) 少人数を対象としたきめ細かなケアへの転換</p> <p>(ア) ソフト面の見直し</p> <p>① 支援のあり方の見直し(事業団)</p> <p>外部の計画相談事業所や児童相談所等の関係機関と連携しながら、利用者にとって最も適切な支援環境を考慮した中長期の見通しを持ち、利用者の障害特性に合った個別支援計画を作成する。個別支援計画の実施(支援)に当たっては、少人数を対象としたケアを基本とし、個々の利用者にふさわしい支援を実現する。</p>	<p>(1) 少人数を対象としたきめ細かなケアへの転換</p> <p>(ア) ソフト面の見直し</p> <p>① 支援のあり方の見直し(事業団)</p> <p>見直し進捗管理委員会委員による個別支援計画の作成指導、パーソナルサポーターによる本人との面談や支援記録の確認に基づく提言、指定管理者モニタリングや改善の進捗に関する確認調査における指摘等を受け、利用者主体の支援に向けた個別支援計画の作成から実際の支援への反映等について見直しを行った。また、利用者にわかりやすく個別支援計画の目的や内容を説明するための資料の作成を行った。</p> <p>個別支援計画のモニタリングに際しては、必要に応じて看護師や栄養士等の専門職が参加するとともに、保護者の参加を得られるよう努め、利用者一人一人のニーズに合った支援の実現を目指した。</p> <p><u>平成29年度からは、本人部会の開催、温冷配膳車の導入、外出機会の確保など、より利用者が主体となる支援の実現に取り組んだ。また、意思決定支援マニュアルの作成に取り組んでいる。</u></p> <p>【平成29年度(12月末まで)の実施内容】</p> <p>○モニタリングへの看護師等の専門職の参加</p> <p>養育園36名中10名(※)・更生園82名中82名(12月末)</p> <p>(平成26年度は養育園70名中4名・更生園87名中62名、平成27年度は養育園58名中11名、更生園85名中81名、平成28年度は養育園45名中23名・更生園83名中83名)</p>

<p>② 開放性の向上（事業団）</p> <p>施錠が必要な箇所や状態について検討の上職員間で共有し、施錠をより少なくできる環境改善と支援を</p>	<p>※養育園では、保護者がモニタリングに来園しやすい土日は看護師が休みであるため、看護師の参加が少なくなっている。なお更生園では、モニタリング会議当日に看護師が出席できない場合は、事前にモニタリングを行い、保護者に報告をしているため、養育園でも今後改善する予定である。</p> <p>○児童のケース会議等への看護師等の専門職の参加</p> <p>養育園36名中17名（12月末）</p> <p>（平成26年度は70名中53名、平成27年度は58名中58名、平成28年度は45名中45名）</p> <p>○モニタリングへの保護者の参加</p> <p>養育園36名中32名（※）</p> <p>更生園82名中78名（後見人申請中の方4名を含まない人数）（12月末）</p> <p>（平成26年度は養育園70名中57名・更生園87名中81名、平成27年度は養育園58名中56名、更生園85名中85名、平成28年度は養育園45名中40名・更生園83名中83名）</p> <p>※保護者の協力が得られず児相担当者が参加したものを含む。</p> <p>○利用者本人向けの計画内容等の説明資料の作成</p> <p>養育園36名中11名（12月末）</p> <p>（平成26年度は70名中19名、平成27年度は養育園58名中13名、平成28年度は養育園45名中15名）</p> <p>○咀嚼や嚥下に関する内部研修の開催 6月8日（12月末）</p> <p>○サービス満足度調査の見直しに関する会議の開催 2回（12月末）</p> <p>○養育園における本人部会の開催 13回（12月末）</p> <p>○更生園における本人部会の開催 8回（12月末）</p> <p>○温冷配膳車の導入 6月末から7月にかけて随時導入（そよかぜ荘を除く※）</p> <p>※そよかぜ荘では、電子レンジ、トースター、IHクッキングヒーター等を利用</p> <p>② 開放性の向上（事業団）</p> <p>施錠が必要な箇所や状態について検討の上職員間で共有し、施錠をより少なくできる環境改善と支援を図っている。</p>
--	---

<p>目指す。また、親しみやすく入りやすい住環境の構築を図る。</p>	<p>環境改善としては、日用品の買い物などの利用者の外出やDVD・本などの選択機会の増加、ふれあい祭り等保護者の参加する行事の開催、寮の内外への利用者の作成した作品の掲示等を行っている。</p> <p>○日中の施錠の取り止め等をした箇所</p> <p>養育園 正面玄関・各寮玄関・職員用トイレ・階段（平成２６年度から）  第３寮ベランダ・第１寮食堂廊下シャッター（平成２７年度から）  第３寮居室入口と窓の鍵の自己管理（一部利用者）（平成２８年度から）  <u>４寮ベランダ・さくら荘全面（平成２９年度から）</u></p> <p>更生園 各寮棟の玄関（平成２６年度から）  各寮のネット撤去・ひまわりＡ棟階段前出入口・  そよかぜ荘行動観察室・そよかぜ荘西側の二重施錠の廃止  （平成２７年度から）  利用者が活動等で不在の場合の各寮出入口を全て解錠  （平成２８年度から）  <u>桧・竹・松寮の出入口、デイルーム等 *日中に開放</u>  <u>（平成２９年度から）</u></p> <p>○環境改善に向けた取組み</p> <p>養育園 第２寮前（平成２６年度から）  利用者居室へのカーテン設置の試行・利用者によるDVDや本などの  選択機会の増加（平成２７年度から）  電子レンジの設置、食堂での炊飯を開始（第３寮、第４寮）  （平成２８年度から）  <u>廊下、寮入り口、食堂及び各寮内などの装飾（平成２９年度から）</u></p> <p>更生園 デイルーム・各寮内・食堂・食堂前廊下  （平成２６年度から）  中央玄関への作品掲示・竹寮前庭花壇作成・  外出機会の増加（平成２７年度から）  保護者会の協力を得てロータリー花壇の整備と植栽・デイルームの  ソファ、ベンチや屋外ベンチを更新（平成２８年度から）</p>
-------------------------------------	---

<p>(イ) ハード面の見直し</p> <p>① 集中見直し期間中の施設環境の整備（県）</p> <p>開放的で明るい住環境となるよう、施設整備等により改善を図るとともに、集中見直し期間後（定員減少後）の利用者の特性に合った施設のあり方について検討をすすめる。（平成３０年度以降の指定管理者の選定の際に、指定管理者の意見を踏まえた施設整備を行うことを盛り込む。）</p> <p>② 集中見直し期間後の施設環境の整備（県）</p> <p>平成３０年度以降の指定管理者と協議し、開放的で明るく、利用者の障害特性に合った住環境・生活空間となる施設環境を整備する。</p> <p>(２) 定員規模の縮小に向けた取組み</p> <p>(ア) 県全体の入所施設の状況把握（県）</p> <p>毎年度、施設入所の待機者に関する状況調査等を行い、県全体での需給状況を把握する。</p> <p>(イ) 障害児（待機児童）の受入先の確保（県）</p> <p>県全体で社会的養護を必要とする障害児の受入先を確保するため、養育園の規模縮小で削減される定員４０人相当の施設新設等を支援する。</p>	<p><u>保護者会の協力を得て中央玄関・廊下壁・スロープのペンキ塗装や花壇等の除草作業を実施</u></p> <p><u>季節の装飾や、写真や作品などを掲示し暮らしの場を意識</u></p> <p><u>第２支援グループ利用者の作業場を児童サービスセンター内に整備（平成２９年度から）</u></p> <p>(イ) ハード面の見直し</p> <p>① 集中見直し期間中の施設環境の整備（県）</p> <p>開放的で明るい住環境となるよう、養育園第２寮を２ユニットにするとともに、劣化した窓ガラスやシャッターの交換等を行った。（平成２７年度工事）</p> <p>老朽化した設備の補修を行い、施設環境を整えるために更生園のスロープの段差解消や居室扉の改修等を行った。（平成２８年度工事）</p> <p><u>養育園第３寮のユニットバス化工事、第１・３寮のトイレのタイルの改修工事、更生園竹寮の床の改修校及び更生園松・楓寮の居室扉の改修工事を実施した。また利用者の安全性を確保するため、養育園さくら荘・更生園そよかぜ荘へのスプリンクラー設備設置工事を実施した。（平成２９年度工事）</u></p> <p><u>センター全体の電気系統に係る真空遮断器更新工事の実施設計を行った。（工事実施は平成３０年度を予定）</u></p> <p>(２) 定員規模の縮小に向けた取組み</p> <p>(ア) 県全体の入所施設の状況把握（県）</p> <p>施設入所の待機者に関する状況の調査を行い、<u>県内の需給状況の把握に努めた。</u></p> <p><u>（H29 ５30名、H28 ６06名）</u></p> <p>(イ) 障害児（待機児童）の受入先の確保（県）</p> <p>平成２８年４月に開設した定員２０名の福祉型障害児入所施設の新設を支援した。また、平成３０年４月開設を目指す福祉型障害児入所施設（定員２０名）<u>の新設を支援した。</u></p>
--	--

(ウ) 袖ヶ浦福祉センター利用者の民間施設・地域への移行の推進

① 施設整備等による受入先施設等の支援（県）

民間施設等で袖ヶ浦福祉センターの利用者を受け入れられるよう、利用者の特性に合った施設改修やグループホーム創設等を支援する。

② 移行に関するマッチング・調整の実施（事業団・県）

事業団において、県とともに、知的障害者福祉協会、相談支援事業者、外部有識者等の意見を聴きながら、利用者と施設のマッチング・施設見学・体験利用等を進め、利用者に合った施設やグループホームに移行できるよう調整する。円滑に移行できるよう、移行後も施設訪問等によるフォローを実施する。

③ 利用者及び保護者への情報提供並びに保護者との関係強化（事業団・県）

移行等に関する利用者及び保護者の不安を解消するため、保護者説明会の開催や保護者会での説明、その他随時個別の情報提供や意見交換を行うとともに、保護者会の活動を支援し、保護者との関係を強化する。

(ウ) 袖ヶ浦福祉センター利用者の民間施設・地域への移行の推進

① 施設整備等による受入先施設等の支援（県）

【平成27年度の実施内容】

グループホーム創設を支援（更生園1名、養育園1名移行）

【平成28年度の実施内容】

入所施設改修を支援（更生園1名移行）

職員加配の支援（グループホームへの移行者2名、施設への移行者1名）

【平成29年度の実施内容】

グループホーム2カ所の創設を支援（更生園2名、短期入所1名移行）

職員加配の支援（グループホームへの移行者3名、施設への移行者2名）

② 移行に関するマッチング・調整の実施（事業団・県）

事業団において、県とともに、知的障害者福祉協会、相談支援事業者、外部有識者からなる移行ワーキングチームにおいて、移行を進めるための方策について意見を聴いた。また、更生園保護者会において、他施設の見学等を行った。平成28年度には利用者の地域移行に伴い、移行先法人への職員の長期派遣を実施して、保護者やご本人の不安の軽減と支援の継続性の確保に努めた。

【平成29年度（12月末まで）の実施内容】

○移行ワーキングチーム 3回

○更生園保護者等他施設見学(事業団職員・県職員同行) 4回

③ 利用者及び保護者への情報提供並びに保護者との関係強化（事業団・県）

利用者の移行を含めたセンターの見直しに関する保護者説明会を開催した。

また、保護者会役員会と事業団職員の会議の定例化、保護者の他民間施設見学への同行、ふれあい祭り等の保護者も参加する行事の開催、保護者会の行事等への事業団職員・県職員の参加による意見交換を行った。その他、広報誌の発行等により、保護者への情報提供及び関係強化に努めた。平成29年度からは、保護者の意見を運営に反映するために「運営協議会」を設置し、保護者との連携強化に努めている。

<p>(エ) 強度行動障害者支援実施体制の構築</p> <p>① 強度行動障害のある方の支援者に対する研修の実施（県）</p> <p>強度行動障害のある方への支援を適切に行うために、強度行動障害に関する専門的知識を有する人材を確保するとともに、施設支援員等に対して、強度行動障害についての理解を深め、また、専門性を高めるための体系的な研修を実施する。</p> <p>② 強度行動障害のある方への支援体制構築事業(モデル事業)の実施（県）</p> <p>強度行動障害のある方への支援体制構築事業(モデル事業)を引き続き実施し、強度行動障害等について知識・実績のある方で構成する会議等において検証した上で、モデル事業の普及啓発を図る。</p>	<p>【平成29年度（12月末まで）の実施内容】</p> <p>○更生園保護者役員定例会（更生園職員参加） <u>7回</u></p> <p>○更生園保護者等の他施設見学(事業団職員・県職員同行) <u>4回</u></p> <p>○養育園保護者等の他施設見学（事業団職員） <u>3回</u></p> <p>○保護者会総会等への同席・意見交換 （更生園 <u>1回</u> <u>23家族28人</u>・養育園 <u>1回</u> <u>6家族6人</u>）</p> <p>○事業団運営協議会 <u>2回</u></p> <p>○保護者参加行事の開催・懇談 <u>14回</u>（更生園<u>8回</u>、養育園<u>5回</u>、<u>両園共通1回</u>）</p> <p>(エ) 強度行動障害者支援実施体制の構築</p> <p>① 強度行動障害のある方の支援者に対する研修の実施（県）</p> <p>強度行動障害のある方への支援者に対する研修（千葉県発達障害者支援センターに委託）を通年で34日間実施し、県内施設等の支援員16名が受講している。3月3日には実践報告会を開催し、実践の成果を発表する予定。</p> <p>平成26年度16名研修受講、実践報告会309名参加。 平成27年度16名研修受講、実践報告会258名参加。 <u>平成28年度16名研修受講、実践報告会298名参加</u></p> <p>県内の障害者支援職員等を対象として強度行動障害支援者養成研修（基礎研修・実践研修）を実施し、基礎研修 <u>      </u> 名・実践研修 <u>      </u> 名が受講した。</p> <p>（平成26年度は77名が基礎研修を受講。 平成27年度は基礎研修98名・実践研修65名受講。 <u>平成28年度は基礎研修1, 254名・実践研修168名受講。</u>）</p> <p>② 強度行動障害のある方への支援体制構築事業(モデル事業)の実施（県）</p> <p>強度行動障害のある方への支援体制構築事業(モデル事業)を実施した成果について、強度行動障害のある方への支援のあり方検討会において、その内容を検証した。</p> <p>モデル事業を元に、袖ヶ浦福祉センター利用者受入等支援事業を創設し、センター利用者を受け入れる施設等の整備及び支援員の追加配置費用の補助を実施している。</p>
---	---



<p>(オ) 医療ケアに関する検討（事業団・県）</p> <p>定員が減った後のセンターにおける医療ケアのあり方を検討する。</p>	<p>(オ) 医療ケアに関する検討（事業団・県）</p> <p>平成29年度に一部診療科目の診療日程の見直しを行った。  <u>（精神科：週4回→週3回、歯科：週3回→週4回）</u></p> <p>診療室について、更生園と併せて指定管理とし、利用者を地域の医療機関での受診に順次移行できるよう地域の医療機関による受診体制の整備を進める方針を示した。</p>
--	---

### 3 事業団のあり方の見直し

実 施 内 容	平成29年12月末までの進捗状況
<p>(1) 職員のモチベーションの向上</p> <p>(ア) 民間施設等での研修（事業団）</p> <p>他の法人における支援を実地に学ぶことによって支援の質及び意識の向上を図るため、千葉県知的障害者福祉協会の協力を得て、民間施設等との交換研修（事業団から他の民間施設への派遣等）を実施する。</p>	<p>(1) 職員のモチベーションの向上</p> <p>(ア) 民間施設等での研修（事業団）</p> <p>県内社会福祉法人の協力を得て、民間施設に宿泊しての体験研修や見学研修を実施した。また、保護者の他民間施設見学にも職員複数名が同行して他施設を見学した。</p> <p>法人運営に関する見識を広めるために、他の民間施設へ長期の研修出向や短期の派遣研修を実施した。</p> <p>【平成29年度（12月末まで）の実施内容】</p> <p>養育園</p> <p>○榎の実特別支援学校派遣研修     12回 12人</p> <p>○のびろ学園派遣研修     3回 6人</p> <p>（上記2派遣研修は概要を職員会議で報告）</p> <p>○SST研修     7回 63人</p> <p>○愛着障害研修     3回 76人</p> <p>（上記2研修は寮会議でケース検討を実施し、研修で講師に相談）</p> <p>○更生園派遣研修     4回 4人</p> <p>○保護者の他施設見学時の同行 3回 延べ13人</p> <p>更生園</p> <p>○保護者の他施設見学時の同行 4回 延べ 9人</p>



(イ) キャリア形成の仕組みの構築（事業団）

キャリア形成の仕組みを構築し、職員のモチベーションの向上を図るとともに、将来、センターをリードできる職員を計画的に育成する。

## （２）センター運営への特化

(ア) 自主事業の計画的移譲（事業団）

事業団の実施する自主事業については、センターとの関係性や役割について整理した上で、計画的に他の民間法人に移譲し、センター運営に注力する。

○民間施設への利用者の体験時の同行 2施設 延べ 6人

○民間施設への派遣研修（１日） １施設 延べ １人（フラット）

○先進施設の見学 2 法人 延べ6人（はるにれの里、みづき会）

(はるにれの里への見学については、概要を職員会議で報告)

※認知症研究で高齢部門と連携強化（専門研修、多職種症例勉強会、施設見学等）

(イ) キャリア形成の仕組みの構築（事業団）

少人数によるグループディスカッションを実施して全支援員が参加し、人権擁護・虐待防止の意識向上だけでなく、支援の質の向上等について話し合う場にもなった。

【平成29年度の実施内容】

○グループディスカッション実施状況

養育園 4月～11月 延べ14回 83人参加

更生園 4月～11月 延べ16回 124人参加

○階層別研修：新任～3年目・4年目～6年目の2回実施

○アンガーマネジメント研修：1回実施（2月に2回目実施予定） 全職員対象

○所内職員講師による内部研修 2回（講師は役職に就いている職員）

○各種検討チームへの若手職員の積極的な登用

## （２）センター運営への特化

(ア) 自主事業の計画的移譲（事業団）

自主事業を下記の3つに区分し①及び②を譲渡することとして、譲渡先を公募により下記のとおり決定し、平成28年4月1日に譲渡した。

なお、②のうち、ながうら地域支援センターのグループホームの一部は事業団で引き続き運営し、早急に利用者に他のグループホームに転居していただくこととし、③については、放課後等デイサービス風の子は廃止し、発達障害児等療育支援事業を引き続き実施することとした。

① アドバンスながうら・放課後等デイサービス虹の子  
→譲渡先 社会福祉法人佐啓会

<p>(イ) 民間との連携強化（事業団）</p> <p>地域における障害者へのサービスを安定して提供するため、自主事業を移譲した法人とは緊密に連携していく。また、強度行動障害者支援についても、県内関係団体と協議しながら、支援ノウハウの情報発信・事例報告会の開催等を実施し、民間施設等との連携を強化する。</p> <p>(3) ガバナンスの充実・強化</p> <p>(ア) 執行体制の強化（事業団）</p> <p>幹部職員は障害者支援の現場に精通した者、役員は支援の現場又は障害者の権利擁護に精通した者とし、役員等は集中見直し期間において県と緊密に連携し、利用者本位のきめ細かなケアの実現を第一義とした法人運営を行う。</p> <p>(イ) 管理部門の配置の見直し（事業団）</p> <p>幹部職員が支援現場における利用者処遇の実態をき</p>	<p>② 代宿地域支援センター・ながうら地域支援センター・ジョブくらなみ →譲渡先 社会福祉法人大久保学園</p> <p>③ 発達障害児等療育支援事業及び放課後等デイサービス風の子（休止中）</p> <p>(イ) 民間との連携強化（事業団）</p> <p>自主事業を移譲した2法人に対して職員の派遣研修を行うなど、移譲後も緊密な連携を図った。</p> <p>事業団の「認知症研究メンバー」が、国立重度知的障害者総合施設のぞみの園研究部の認知症研究チームと県内のダウン症と認知症の実態調査についての意見交換を行った。<u>平成29年5月に調査を実施し、その結果を10月認知症セミナーにて発表した。</u></p> <p>(3) ガバナンスの充実・強化</p> <p>(ア) 執行体制の強化（事業団）</p> <p>支援の現場又は障害者の権利擁護に精通した者が平成26年度から引き続き役員として運営に携わり、機動的な理事運営会議（県職員も参加）の開催等により、センター・事業団の課題解決に向けた法人運営に努めている。</p> <p><u>また平成29年度の社会福祉法改正に伴い、改正趣旨に添った役員及び評議員の選任を行った。これまで評議員を務めた保護者会役員については、事業団運営協議会を設置することで情報共有の場を設けた。</u></p> <p>【平成29年度（12月末まで）の実施内容】</p> <table> <tr> <td>○理事運営会議</td><td><u>1回</u></td></tr> <tr> <td>○理事会</td><td><u>4回（うち1回は書面決裁）</u></td></tr> <tr> <td>○評議員会</td><td><u>1回</u></td></tr> <tr> <td>○理事長通信</td><td><u>3回</u></td></tr> </table> <p>(イ) 管理部門の配置の見直し（事業団）</p> <p>幹部職員の現場の巡回等により支援現場における利用者処遇の実態の把握に努めた。</p>	○理事運営会議	<u>1回</u>	○理事会	<u>4回（うち1回は書面決裁）</u>	○評議員会	<u>1回</u>	○理事長通信	<u>3回</u>
○理事運営会議	<u>1回</u>								
○理事会	<u>4回（うち1回は書面決裁）</u>								
○評議員会	<u>1回</u>								
○理事長通信	<u>3回</u>								

め細かく把握し、適切に職員を指導するため、幹部の意識向上を図るとともに、利用者の居住空間から離れた位置にある管理部門の配置を見直す。	管理部門の配置の見直しについては、平成２８年３月に理事長室を中央棟３階に移転を行い、事務局は中央棟２階に移転する方向で検討、準備を進め、 <u>平成２９年４月に総務部門、経理部門を移転した。</u>
--	---

#### ４ 県や外部による重層的なチェックシステムの構築

実 施 内 容	平成２９年１２月末までの進捗状況
<p>(１) 法又は協定に基づくチェック体制の充実・強化</p> <p>(ア) 県の指導監督の強化</p> <p>① 監査の強化（県）</p> <p>県の監査において、施設内巡回の時間の拡大、支援員からの聴取り、抜き打ち検査の実施等により、報告書類のチェックにとどまらず、支援の実態を把握する。</p> <p>② 監査時の民間人材によるチェック（県）</p> <p>県の監査等において、民間人材による個別支援計画の確認等を並行的に取り入れ、支援の質についてチェックする。</p> <p>(イ) 指定管理者のモニタリングの強化（県）</p> <p>外部有識者による運営状況評価において、実質的なチェックを受けられるよう、県独自に把握した情報を提供し、現場の支援状況の確認を受ける等、運用の強化を図る</p> <p>(２) 外部チェックの充実・強化</p>	<p>(１) 法又は協定に基づくチェック体制の充実・強化</p> <p>(ア) 県の指導監督の強化</p> <p>① 監査の強化（県）</p> <p>県の監査において、施設内巡回の時間の拡大、支援員からの聴取り、抜き打ち検査等の実施により、支援現場の実態把握に努めた。</p> <p>【平成２９年度（<u>１２月末まで</u>）の実施内容】</p> <p>○県の調査 <u>３回</u>（<u>１回</u>は抜き打ち）</p> <p>② 監査時の民間人材によるチェック（県）</p> <p>県の監査等において、民間人材による個別支援計画の確認等を並行的に取り入れ、個別支援計画の作成等について指導した。</p> <p>【平成２９年度（<u>１２月末まで</u>）の実施内容】</p> <p>○進捗管理委員会委員による個別支援計画確認等 <u>１回</u></p> <p>(イ) 指定管理者のモニタリングの強化（県）</p> <p>外部有識者による運営状況評価において、事前に県の監査等で把握した情報を提供した上で現場の支援状況の確認を受ける等、運用の強化を図った。</p> <p>【平成２９年度の実施内容】</p> <p>○指定管理者モニタリング <u>１０月１７日</u></p> <p>(２) 外部チェックの充実・強化</p>

**(ア) 権利擁護の仕組みの強化（事業団・県）**

パーソナルサポーターや相談支援アドバイザー等の外部専門職の派遣により、外部の目を入れることで利用者のニーズの実現に向けた支援の質の向上を図る。また、虐待防止委員会への保護者や外部有識者の参加、苦情解決第三者委員の相談や巡回、保護者の定期的な巡回等を行う体制を確保する。

**(イ) 外部事業所による計画作成の強化（事業団）**

事業団以外の民間法人が運営する相談支援事業所において、県立施設利用者の計画相談及びモニタリングを実施することにより、支援を客観的に評価し、外部性や地域との関係を確保する。

**(ア) 権利擁護の仕組みの強化（事業団・県）**

パーソナルサポーターや相談支援アドバイザー等の外部専門職の派遣により、外部の目を入れることで利用者のニーズの実現に向けた支援の質の向上を図った。

虐待防止委員会を権利擁護委員会と改称し幅広く支援の質の向上等についても議論する場とした。権利擁護委員会への保護者や外部有識者の参加、苦情解決第三者委員の相談や巡回、保護者や特別支援学校教員の定期的な巡回等を行う体制の確保に努めた。

振り返りチェックシートの継続のほか、「支援時のキラリと光るエピソード（他者のよい支援を職員同士でみつける取組み）」等、職員自身による支援の質の向上に関する取組みを行った。

**【平成２９年度の実施内容】**

○パーソナルサポーター１０人による養育園児童等１０人の支援環境等の確認（月１回程度）

○相談支援アドバイザー３人による更生園第１支援グループの支援環境等の確認（９月～・月１回程度）

○相談支援アドバイザー１名による更生園第２支援グループの支援環境等の確認（１１月～・月１回程度）

○権利擁護委員会への保護者等の参加（４月～・２カ月に１回開催）

○権利擁護部会の活性化（４月～・月１回開催）

○苦情解決第三者委員の相談・巡回（４月～・月１回程度）

○保護者等の巡回（４月～・月１～２回程度）

**(イ) 外部事業所による計画作成の強化（事業団）**

事業団以外の民間法人が運営する相談支援事業所の計画作成への切替えに努めた。

○更生園 外部相談事業所による計画作成７７名（**１２月末**）

（平成２６年度１３名、平成２７年度５７名、平成２８年度７７名）

○養育園 外部相談事業所による計画作成２名（**１２月末**）

（平成２６年度３名、平成２７年度１５名、平成２８年度８名）

<p>(ウ) 研修時の外部機関の活用（事業団）</p> <p>千葉県発達障害者支援センター等を活用し、職員に対し計画的に研修を行い職員の支援の専門性を高めるほか、アンケートの実施などにより研修の成果等のチェックを受ける。</p>	<p>(ウ) 研修時の外部機関の活用（事業団）</p> <p>千葉県発達障害者支援センターや外部講師による研修を実施し、アンケートを行った。また、外部研修や他の民間施設見学等の研修に参加した職員による伝達講習や研修報告等を実施し、研修成果の共有を図った。</p> <p>【平成２９年度の実施内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○虐待防止やコンプライアンスに関する外部講師による研修 <u>１回</u></li> <li>○専門知識や技術の向上に関する外部講師等による研修 <ul style="list-style-type: none"> <li>・更生園職場内研修 <u>３回</u>（７月、１０月、１１月）</li> <li>・養育園ＳＳＴスーパーバイズ研修（４月～月１回）</li> <li>・養育園愛着障害研修（<u>６月・９月・１２月</u>）</li> </ul> </li> <li>○外部研修受講後の伝達講習 <u>９回</u>（更生園<u>４回</u>・養育園<u>５回</u>）</li> <li>○外部研修後の研修報告 <u>２６件</u>（更生園<u>６件</u>・養育園<u>２０件</u>）</li> </ul>
--	--

平成２６年度末の見直し進捗管理委員会委員からの付帯意見

袖ヶ浦福祉センターが地域や他の施設から孤立していることは検証委員会の最終報告でも指摘されたところであり、袖ヶ浦福祉センターのみに重度の障害がある人への支援を任せきりにするようなことがあってはならない。そのためには、袖ヶ浦福祉センター以外の施設や地域の関係者が、地域で支援が困難だと判断された障害者を県立施設に委ねるだけでなく、袖ヶ浦福祉センターの利用者に対して、地域も一体となった継続的な支援が行われるための施策も必要と考えられる。検証委員会の最終報告の趣旨を踏まえ、今回示した見直し項目以外にも、一層の取組みを図るよう、平成２７年度以降において、さらに検討されたい。

平成２６年度末の見直し進捗管理委員会委員からの付帯意見に対する検討状況

平成２７年７月２８日の第１回千葉県総合支援協議会（第五次千葉県障害者計画策定推進本部会）入所・地域生活専門部会において、重度・重複障害のある人等の地域での生活等について検討した。

平成２８年度は、強度行動障害のある方への支援のあり方検討会において、強度行動障害のある方が袖ヶ浦福祉センター以外の施設や地域で生活していくための支援のあり方や制度の見直しについて検討した。

平成 28 年度末の見直し進捗管理委員会委員からの付帯意見

なお、見直し進捗管理委員会が座長名で作成した「見直し進捗管理委員会 平成 28 年度 付帯意見」を本評価に添付するので、参照すること。